

国際交流で グローバルに輝く地域づくり



たからべ やすなり
財部 能成
つしま
対馬市長(長崎県)



やすだ まさよし
安田 正義
かとう
加東市長(兵庫県)



ひろせ としお
広瀬 寿雄
しもだ
下野市長(栃木県)



くき くにやす
久喜 邦康
ちちぶ
秩父市長(埼玉県)

司会・コーディネーター

ほその すけひろ
細野 助博

中央大学総合政策学部教授

グローバル化が進展する中、自治体の国際交流事業は国際的に活躍できる人材の育成、外国人住民との交流による地域活性化に大きく寄与するのみならず、産業育成などへの波及効果についても期待されています。

今回の座談会では長年、国際交流事業を行ってきた久喜邦康・秩父市長、広瀬寿雄・下野市長、安田正義・加東市長、財部能成・対馬市長にお集まりいただき、事業の経緯や内容、その具体的な効果やメリット、これからの自治体交流の在り方などについてお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

通常の友好交流だけでなく、文化交流や産業交流なども含めて、幅広く交流をしているところに特徴があります。



久喜 邦康
秩父市長(埼玉県)

長年にわたり、自治体交流を推進

細野 昭和30年に長崎市がセントポール市と初めて姉妹都市提携を行ってから半世紀以上が経過した現在、全国の提携件数は1600を超えています。近年は厳しい財政事情の下、国際交流事業の在り方についても見直しを図る傾向

眼し、「世界に誇れるグリムの里づくり」をまちづくりのテーマとした「グリムの里づくり」事業も実施してきました。その中核施設として、グリム童話やドイツ風土のイメージを取り入れた「グリムの館」を平成8年に建設したほか、「グリム絵画展」「グリム童話賞」をはじめとしたソフト事業も展開するなど、国際交流を縁に得た地域資源を、まちづくりにも積極的に活用しています。

安田 加東市では、昭和56年に姉妹都市締結したアメリカワシントン州の州都・オリンピックア市を皮切りに、カリフォルニア州・ホリスター市、ワシントン州・シエラン市と、いずれもアメリカの都市と姉妹都市提携を締結しました。これまで本市から姉妹都市を訪問した市民は約1100人。加東市が受け入れた使節団もおおよそ同数に上ります。

この姉妹都市提携のほかに、国際交流を推進させたのは、昭和53年に本市に設置された兵庫教育大学の存在です。同大学では平成に入ってから外国人留学生を受け入れてきましたが、以来、加東市国際交流協会を中心に、留学生たちと市民が交流する機会を、数多く設けてきました。

その一つが、留学生が地域の家庭に溶け込み、家族として交流する「フレンドシップファミリー事業」で、これまでに参加した留学生は654人に及びます。加えて、平成4年度から留学生の生活の安定と学習活動の促進などを目的に奨学金制度を設け、予算の範囲内で留学生に支給しております。さらに、国際交流の裾野を拡げ、市民の国際理解を深めることを目的に、平成19年度には、「外国人留学生人材バンク」を開設し

があるようですが、国際的な競争と連携の時代の中で、その意義はいよいよ大きくなってきているのも事実です。それでは、各都市で行ってきた国際交流の内容について、まずお話し下さい。

久喜 秩父市は、これまで姉妹都市提携を結んだ都市が5つと、産業交流協定を結んだ都市が1つあり、長年にわたり多くの都市と積極的に交流してきました。ここでは、中でも特徴的な3つの都市との交流についてご紹介します。

1つ目は、昭和42年に姉妹都市協定を締結したアメリカのアンチオック市です。秩父市が最も古くから交流してきた都市で、これまでの相互訪問の数は20回を超え、秩父市からも350名の若者たちを派遣してきました。

2つ目が、合併前の旧吉田町時代に姉妹都市を締結したタイ王国のヤソトン市との交流です。旧吉田町では、古くから手づくりロケットの祭り「龍勢祭」を行ってきましたが、これと同様の祭りを行っていたのがヤソトン市でした。共通の伝統行事を縁に相互派遣をはじめとした文化交流を推進し、平成11年には相互の交流をさらに深めるために姉妹都市の提携を結びました。

3つ目が、スウェーデン王国シエレフテオ市との交流です。シエレフテオ市は世界的な林業の先進都市として知られ、木材の有効活用、バイオマス発電などを積極的に進めています。秩父市も林野面積が地域の約9割を占める、典型的な森林都市ですが、ぜひとも林業の活性化の参考にしたと、平成19年に産業交流協定を締結しました。私自身も現地を訪れ、秩父市のおよそ300倍の規模を誇るバイオマス発電所や、熱循環システムなど、さまざまな設備を目

ました。留学生が自分の得意とする分野を登録し、市民を対象に国際理解教育を行うもので、これまで32回の講座が行われています。また、平成20年度からは、市営のケーブルテレビにおいて、留学生による「私たちのふるさとを紹介する」の番組もスタートするなど、さまざまな機会を通じて、市民との交流を深めています。

言葉が通じない異国でのホームステイの経験は、子どもたちを一回りも二回りも成長させます。



広瀬 寿雄
下野市長(栃木県)

の当たりにはしてきました。このように秩父市では、通常の友好交流だけでなく、文化交流や産業交流なども含めて、幅広く交流しているところに特徴があると考えています。

広瀬 下野市では、合併前の旧石橋町時代からドイツのデイトツヘルツタール町(当時はシュタインブリュッケン村)と交流を進めてきました。その交流は今から40年以上前の昭和41年にも遡ります。当時、獨協医科大学名誉学長の故・石橋長英先生が、「石橋」を意味する旧西ドイツのシュタインブリュッケン村との交流を橋渡ししてくださったのです。いわば、「石橋」が取り持つ縁をきっかけに始まった交流ですが、これを機に、小学生の絵画の作品交換など、地道な交流を進め、昭和50年の姉妹都市締結に至りました。これまで定期的に相互訪問を実施し、わがまちから派遣した市民の数は中学生を中心に約200名に及びます。また、旧石橋町の事業だったこの派遣事業も、平成18年の合併後は市全体の事業に拡大することで、新市としての一体感の醸成にもつながっています。

そのほか、旧石橋町では、このデイトツヘルツタール町がグリム兄弟の出身地であるヘッセン州に属していることに着



財部 多くの都市にとって、国際交流は改めて取り組むべき課題でしょうが、対馬市の場合、少し事情が異なります。朝鮮半島との交通の要衝地であるわがまちにとって、隣人との交流は、まさに自分たちが生きるため、当然のように行ってきた歴史があるのです。

とはいえ、その長い歴史の中でも明治以降は例外でした。国境が明確につくられ、お互いの行き来も十分にはできない時期を経験したのです。

そのような関係に変化が出てきたのは25年くらい前でしょう。それまでも市民レベルでは行き来がないわけではありませんでしたが、昭和61年、公式に対馬島(対馬市合併以前の旧6町)と韓国釜山広域市影島区の間で姉妹島縁組を締結しました。さらに、国際ターミナルなどのインフラを整備するなどして、平成12年には釜山市との定期航路の運航を実現しました。そのおかげで、市民同士の交流が日常的に行われるようになっていきました。

また、本市では、古くから朝鮮半島と日本を結ぶ地理的な特性や、歴史的意義をまちづくりに生かそうと、江戸時代の朝鮮通信使に着目してきました。平成7年には通信使にゆかりのある国内の自治体や各種団体などをメンバーとする「朝鮮通信使縁地連絡協議会」を発足させ、さまざまな活動を行っています。

今年、ちょうど最後の朝鮮通信使が来日してから200年目の節目の年に当たります。これを記念して、本市では「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会対馬大会」をはじめ、韓国との交流イベントを数多く展開していくことにしています。



財部 能成
対馬市長(長崎県)

行政を介した交流も重要ですが、市民同士の草の根の交流が進むことが何より大切です。

国際交流事業がもたらす信頼の絆

細野 いずれの都市も、それぞれ地域的・歴史的特性を生かしながら、独自の国際交流事業を展開してきたことが実によく分かりました。それでは、国際交流事業を展開して、各都市にはどのような効果やメリットがあったのか、具体的に話していただけませんか。

広瀬 子どもたちを海外の姉妹都市へ送り出す意義や効果は極めて大きいと感じています。下野市が派遣するドイツヘルツタール町はドイツ語圏のため、もちろん言葉は通じません。それなのに、現地へ到着したら、一人一人ホームステイ先で過ごさなければならぬのです。子どもたちの不安、緊張は計り知れませんが、しかし、その中でも必死にコミュニケーションを図り、生活をしていくことで、一回りも二回りも成長して帰ってきます。

久喜 私もかつて、姉妹都市のアメリカのアンチオック市を、派遣生として1週間ほど訪れたことがあります。当時のことは鮮明に覚えていますよ。とても得難い経験をしたと思いますね。
安田 交流先から大いに刺激を受けて帰ってくる市民も多いですね。実は、本市はボランティア活動が活発な都市ですが、その背景には姉妹都市訪問の経験が一因としてあるのではないかと私は考えています。現地を訪問し、アメリカ人のまちづくりへの参加意欲の高さを、身染みて実感する市民がことのほか多いのです。

広瀬 姉妹都市との交流は、自分たちのまちを再認識する得難い機会にもなっています。わがまちを紹介するためには、当然、まちの資源なり、歴史なりを改めて把握する必要性に迫られ

ら経験させることも大切だと考えています。

原発事故が世界に与えた衝撃と影響

細野 苦境があれば、お互いが支え合う。自治体同士の、国境を越えたパートナーとしての信頼感を強く感じさせます。今回の東日本大震災でも、多くの外国の都市から、交流自治体に義捐金をはじめとした支援が届けられていると報

本市のボランティア熱が高い背景には、アメリカのまちづくりに触れた経験が大きいのではと考えています。



安田 正義
加東市長(兵庫県)

す。それにより、これまで気が付かなかったまちの良さを発見するとともに、まちに対する誇りや愛着も感じるようになるのです。現在、教育委員会でも、自分たちのまちを紹介できる子どもを育成しようと、本市の特徴をまとめた小学校高学年用の副読本を作成しています。
久喜 本市では、合併を機に、カエデのメープルシロップを使ったお菓子を開発しました。こ

道されています。大変ありがたいことですが、その背景には原発事故の存在もあるでしょう。そのことに思いを致すと非常に複雑な気持ちにさせられます。実際、これを機に、外国からの訪日客も大きく減少していますが、各都市の国際交流にも影響を与えたのではないかと、心配になります。

久喜 確かに影響はありますね。残念なことですが、アンチオック市との交流に伴い、世界的に有名なポストン音楽院で活躍する音楽家たちが、秩父市内で盛大に音楽祭を開く予定でしたが、原発事故の影響を受けて、規模の縮小を余儀なくされました。

安田 兵庫教育大学の留学生も、事故直後に「日本は危険だからすぐに帰ってくるように」という指令があったようです。あっという間に、多くの留学生が一時的に、本国に帰国しました。
財部 恐らく最も影響を受けたのは、対馬市ではないかと思えます。福島からはこれだけ距離が離れているのに、3月の末には釜山からの国際航路はすべて運休となりました。実際のところは、対馬よりも釜山の方が福島に近いにもかかわらずです。私はトップセールスマンとして、そのことを現地で見聞して訴えたのですが、こういうときこそ、正確な情報の伝達が大切だなと感じました。

広瀬 震災が起きて10日後ぐらいでしょうか。姉妹都市のドイツヘルツタール町が臨時議会を開き、下野市へ多額の義捐金を送ることを決定したとの情報が届きました。福島から距離的に近いということで、大変心配されたようです。ただ、その心配に反して、下野市には直接的な被害はなく、普段通りの生活を続けてい

れを交流先のシエレフテオ市に持って行ったところ、意外なほど興味を持っていただきました。うれしいことに、これは2年連続モンドセレクトションを受賞したのですが、異なる文化圏の人に認められることで、改めて自分たちのブランド力を再認識することができました。

財部 行政を介した交流も重要ですが、市民同士の草の根の交流が進むこともより大切になってくるでしょう。より親密な関係を構築できます。対馬市では本庁と上対馬事務所に配置した韓国人の国際交流員が、市民に対して、韓国の文化を伝えたり、韓国語講座を開いたりしています。参加した市民にしたら、せっかく言葉を学んだのだから、使ってみたくするのは当然です。そこで、航路もあるし、行ってみようかということ、気軽に韓国を訪れる。私の家内もその一人ですが、そのようにして韓国人と直に交流する人が多いですね。

安田 国際交流による教育効果も見逃せません。市内のある小学校では、眼病で苦しむネパールの人たちの写真展の開催をきっかけに、昭和63年から毎年、お小遣いやお年玉などから寄付を続けてきました。実際に、そのお金がネパールの校舎や教室の建設費用に充てられてきたのです。すると、阪神・淡路大震災後、その被害の大きさを報道で知ったネパールの小学校から、見舞金として7000円が送られてきました。この7000円は、額は大きくないかもしれませんが、現地の子どもたちが家でつくった貴重なジャガイモを市場で売った大切なお金です。私自身、この話を知ったときには、思わず目頭を熱くしてしまいました。このような真の相互理解をはぐくむ交流を、子どものうちか



ます。やはり、正確な情報が届いていなかったということでしょう。

ここで大きな力となったのは、長い交流の中で培われた市民同士のネットワークです。メールを通して、市民たちが情報をキャッチアップしてくれたりおかげで、偏向気味の海外メディアとは異なる正確な情報が、その後ドイツヘルツタール町にもたらされました。この点からも、交流の大切さを改めて感じました。

波及効果と費用をどうとらえるかが課題

細野 冒頭にも申し上げましたが、現在、都市の国際交流事業の在り方について、いろいろ議論が出ています。各都市においても、今後どのように進めるか、方向性をいろいろ模索しているかと思えます。最後に、そのあたりについて、お話しいただけますか。

久喜 大変難しい課題です。これまで続けてきたアンチオック市への派遣事業も、曲がり角の時期に入っています。子どもたちを派遣しようと募集しても、応募が集まらなくなっているのです。海外旅行が珍しくなくなっている中、しかも、財政状況が厳しい中で、あえて市



細野 助博
(中央大学総合政策学部教授)

が費用を掛けて派遣事業を行う必要があるのかどうか、頭を悩ませています。

財部 対馬市では韓国の釜山に事務所を設け、現地職員を2人配置しています。彼らは交流事業はもとより、企業の商談にも応じています。もちろん、コストは掛かりますが、十分に役割を果たしていると感じているからこそ、本市では予算をつけています。しかし、その効果を明確に数値で表すことができないところに難しさを感じています。

安田 加東市でも、合併を機に、今後の姉妹都市交流をどうするべきか、徹底して議論を行った経緯があります。その結果、従来からの3都市との姉妹都市関係は維持しつつも、訪問事業などの交流は、オリンピア市のみに絞ることにしました。将来の日本を担う子どもたちの国際化への扉を閉ざしてはならないと、3都市との関係を存続することを決めたのです。これからも、その思いを持ち続けて、事業を継続していきたいと考えています。

久喜 これからの国際交流を考えると、目的をしっかり踏まえた事業を行う必要があると考え

ています。お話した通り、秩父市としては、産業連携、文化交流という明確なテーマを持った交流事業を推進していく予定です。

財部 もう一つ付け加えると、やはり、活発な草の根の民間交流が、これからの国際交流のカギになると思います。となると、そのための人材の育成も大切になってきます。対馬市には3つの高校がありますが、その一つ対馬高等学校では、1学年20名の「国際文化交流コース」を設け、韓国語や文化を教えています。幸いなことに、ここから釜山の国立大学へ5名の進学枠が確保されており、卒業後は韓国で働く人も少なくありません。民間交流を推し進めるためにも、このような両国の橋渡しをする人材がなおさら必要になってくるでしょう。

広瀬 その意味でも、大学の存在は大きいですね。下野市では平成4年から「グリムの里夏期日本語講習会」と称して、ドイツのミュンヘン大学生のホームステイ受け入れ事業を毎年行ってきましたが、今や多くの市民を巻き込んだ交流として定着しています。下野市としても、大学など諸機関の力も借りつつ、民間交流をさらに進めていきたいと考えています。

細野 4市長からのお話を聞いて、自治体の国際交流事業とは、「行為と情報のキャッチボールによるつながりづくり」ではないかと、感じました。そのプロセスを通じて、相手方との相互理解を深めながら、人材づくり、産業づくりなどを進めていく。そうして、最終的には地域の活性化も実現していく。そのような国際交流事業の全体像を眺めてみると、やはり、その意義は極めて大きいと感じた次第です。

確かに、事業のコストを考えると、難しい部

分があるかもしれませんが、その豊かな成果に思いを致すならば、ここは長期的な視点でじっくりと腰を据えて取り組むことも必要でしょう。これからも、国際交流都市の先駆者として、市民と力を合わせ、引き続き事業を継続し、大いなる成果を得られることを願っています。本日は長時間にわたり、ありがとうございます。

(平成23年7月13日、日本都市センターにて実施)
本コーナーは隔月掲載となります。次回は来年1月号に掲載予定です。

